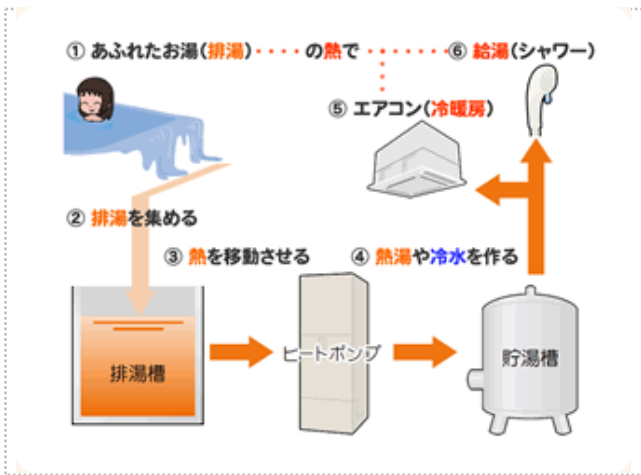


取組名称	温泉で石油ゼロ！熱をフル活用するSDGS温泉旅館			団体設立後の経過年数	113年
応募取組主体名称	鈴の宿 登府屋旅館	活動地域	山形県米沢市	応募取組の活動年数	13年
取組主体の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 企業 / <input type="checkbox"/> 学校 / <input type="checkbox"/> NPO・任意団体 / <input type="checkbox"/> 自治体 / <input type="checkbox"/> 地域コミュニティ / <input type="checkbox"/> 個人 / <input type="checkbox"/> ユース部門 (概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / <input type="checkbox"/> その他				
応募取組に関する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとつくり賞 / <input checked="" type="checkbox"/> 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨	<p>温泉が常にあふれ捨てられていく大浴場、石油で加熱して水道水が温水になるボイラー室。温泉を浴用だけでなく熱源としてヒートポンプを導入したのが2010年。石油はゼロになりました。旅行に行きたくても選択肢がない車椅子ユーザー向けにバリアフリー化した2014年。何年ぶりの温泉を楽しむ方が増えました。捨てられるはずのユーカリや温泉熱を活かしたサウナができた2023年。温泉と旅館をSDGSで見直し、活用しています。</p>
実績の要旨	<p>2010年 温泉の排湯を熱源とするヒートポンプを導入。石油をゼロにしてCO2を大幅削減。13年間継続中。          2014年 車椅子でもラクラクをテーマに客室や大浴場、貸切風呂、サウナを順次バリアフリー化。これまでは旅を諦めていた車椅子ユーザーが年間150人以上訪れるようになる。          2023年 貸切サウナでの規格外ユーカリを用いたウィスキングや温泉床暖房併用サウナによるサウナの省エネ化に成功。また、紅花染で余った紅花を食べた鶏の玉子を使って温泉熱で温泉玉子を作って提供している。</p>

取組評価の要旨	環境への貢献	温泉熱ヒートポンプを導入し、二酸化炭素を年間58トン削減、年間29トン使用していた石油がゼロに。規格外のユーカリをサウナで活用。
	社会・経済への貢献	ヒートポンプ導入の方法や館内での視察ツアーなどを他社への公開や啓発も積極的に行う。
	地域資源の活用	温泉を浴用だけでなく、熱源として暖房や給湯に活用。本来は商品価値のない規格外の山形産ユーカリを使用。地元産にこだわる温泉玉子も
	普及・汎用性	初期投資はかかるものの、ランニングコストが下がり、確実に回収できるため、経済的にも導入した方が長期的にはコストダウンになる。
	革新・ユニーク性	温泉は浴用では無数に利用されている中、暖房、給湯、サウナなど業界でも先駆けて活用。冷房では川の水を活用し冷却している。
	継続性	温泉熱ヒートポンプは2010年から13年継続しており、削減したCO2は累計689トン、不使用の石油は累計377トン。

展望の要旨	今後は、温泉熱を活用した農業や温泉水からの製塩など、さらなる活用を模索していきたい。
-------	--